

会 議 録

会議の名称	次期和泉市総合計画等策定委員会（第4回）
開催日時	令和6年5月8日（火） 午前9時00分から午前10時30分まで
開催場所	和泉市役所 庁議室
出席者	<p>【出席者】 森吉副市長、吉田副市長、大槻教育長、並木参与、山本危機管理部長、前田市長公室長、土本総務部長、山崎環境産業部長、西川福祉部長、立花市民生活部長、藤原子育て健康部長、林田都市デザイン部長、東教育・こども部長、辻生涯学習部長、近藤上下水道部長、岡田消防長、藤原行政委員会事務局長、藤原議会事務局次長（議会事務局長代理）</p> <p>【事務局】 （政策企画室） 門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、加藤政策・資産マネジメント担当総括主幹、江口主査 （人事課） 奥課長、山口課長補佐 （財政課） 古川次長、山岡課長補佐</p>
会議の議題	1. 人口ビジョンの策定について 2. 策定支援事業者の選定について
会議の要旨	和泉市人口ビジョンについて、令和6年3月末の人口にて推計を行った結果を反映した。 また、策定支援事業者の再公募について、公募条件等について報告を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

	<p>【次第1 人口ビジョンの策定について】</p>
事務局	<p>（事務局【政策企画室】から、次期人口ビジョンについて説明）</p> <p>次のような質疑等があった。</p>
辻部長	<p>○今回作成した和泉市の人口推計について、特徴はあるか。</p>
事務局	<p>○本市の推計については、全国的な人口減少と同じようなカーブで人口が減っていくものであるが、特段、本市特有の動きというものは見当たらない。なお、令和5年度までの実際の人口の動きに関する分析は、今後データ集の中で行っていく。</p>
藤原部長	<p>○10 ページ、11 ページの円グラフについて、割合だけではなく転入者数等の実数も表示しておいてはどうか。</p>
事務局	<p>○可能な範囲で転入者数等を記載していく。</p>
山崎部長	<p>○合計特殊出生率について、新型コロナウイルスの流行が最も大きかったのは令和2年・3年だと思うが、この影響は少し遅れて出生等に影響するものと考えられる。そうすると、令和4年度・5年度の数値にこれらの影響が出てくるのではないかとと思われるところ、現在、令和3年までの合計特殊出生率にて推計を算出しているが、新型コロナウイルスの影響というものは推計上、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>○現状、新型コロナウイルスの影響は特段考慮していない。</p>
森吉副市長	<p>○新型コロナウイルスの影響ももちろんあると思うが、その影響を確認するにはもう少し経ってからでないといけないのだろうと思う。</p>
東部長	<p>○1 ページの人口について、令和5年度の人口は10月1日時点となっているが、令和5年度末の人口にした方がよいのではないか。また、3 ページについて、このページは国勢調査の人口を用いており、最新が令和2年度になっているが、こちらも令和5年度の数値を記載した方がよいのではないか。10 ページ、11 ページについては、説明のコメントが記載されていないため、記載した方がわかりやすいように思う。</p>
事務局	<p>○ご指摘の点について、各ページの最新時点の数値を掲載するとともに、説明書きのコメントを追加する。</p>
立花部長	<p>○いくつか、表記上の点を指摘したい。まず、表紙下部に「大阪府和泉市」と記載されているが、不要ではないか。次に12 ページ、「2 推計条件」の1 行目に「全国的な人口減少の潮流に漏れず…」とあるが、あまりこのような言い回しはしないと思う。「全国的</p>

	<p>な人口減少の傾向と同様…」くらいでいかがか。次に、13ページの「今後の見通し」の箇条書きの2点目について、「20年を超えると、…」とあるが、20年後であるのか、令和20年であるのかがわかりにくいので、「今後」と追記してはどうか。最後に、16ページの説明書きの3行目、「本市は全体の1/3程度に…」とあるが、何の1/3かがわかりにくいので、「上位1/3」としてはどうか。</p>
事務局	<p>○誤解を招かないよう、適切な表現に改める。</p>
土本部長	<p>○10ページの円グラフの中央に「全転出者数」と記載あるが、「全転入者数」の誤りであると思われる。</p>
藤原局長	<p>○グラフの色合いについて、一つのグラフの中で似た色が使われているところがあり見づらいつと感じる。</p>
森吉副市長	<p>○事務局と相談のうえ、体裁を再度検討する。</p>
吉田副市長	<p>○8ページの年齢階級別社会動態について、国勢調査をベースに、理論値と実績値との比較で社会動態を把握するようなものになっているが、これらのデータは市民室の持つ住民基本台帳のデータで把握できないものか。</p>
事務局	<p>○市民室において古いデータをどのような形で保管しているかは不明であるが、作業が膨大になることが予想され、現実的ではないと思われる。平成27年推計においては国勢調査の数値を用いてこの表を作成していたため、今回はそれを踏襲した。</p>
吉田副市長	<p>○10ページと11ページの円グラフに関連して、どの市からどの程度の割合で転入されているのかというのはぜひ把握しておきたい。例えば、この表を見れば、堺市から5年間に約6,800人、大阪市から約3,300人、岸和田市から約1,900人転入してきたということになっているが、約270万人の人口を擁する大阪市からの3,300人と、約19万人の岸和田市からの1,900人という、その割合は大きく異なる。後日でよいが、この割合を把握したいので、各市の人口規模を提示いただきたいが可能か。</p>
事務局	<p>○可能であると思われる。各市の人口と割合を調査する。</p>
吉田副市長	<p>○全体に対する提言として、集計と分析は異なるということをしっかりと認識しておいてほしい。単に数字を集めてくれば集計は容易であると思うが、そこから導きだされる分析と考察を分けて書いておくべき。我々行政職でないといけない分析をどんどん増やして行ってほしい。</p>
	<p>【次第2 策定支援事業者の選定について】</p>
事務局	<p>(事務局【政策企画室】から、資料2について説明)</p>

	<p>次のように質疑等があった。</p>
吉田副市長	<p>○ヒアリングの回数を減らすということだが、その部分はどうのように補うのか。</p>
事務局	<p>○総合計画は市の最上位計画であり、全ての部局に関連するものであるため、最低1回のヒアリングは必須と考えているものの、さらに詳細を聞き取る2回目については、全ての部署に対して行う必要もなく、半分程度で済むのではと考えている。ヒアリング回数の削減によって業務の質が落ちないように、事務局で予め意見をとりまとめて置くことや、効率のよいヒアリングにするなど、必要な工夫は行っていきたい。</p>
吉田副市長	<p>○施策提案部分について、先進事例の提示に緩和するということが、初回の公募時どのような施策提案を事業者に求めていたのか。また、今回、要件を緩和したとのことで、前回よりも要求水準が下がることになると思うが、その下がった水準はどうのように補う予定か。</p>
事務局	<p>○本来的に、市がとるべき施策の検討や、健全化項目の洗い出しは市が主体的に行うべきものであり、事業者からの提案の有無にかかわらず市で行うため、水準の低下にはならないと考えている。そのうえで、他市や国の動向等をよく知る策定支援事業者に施策提案を求めていたが、事業者にヒアリングしたところ、多数の事業者から「和泉市の各分野の施策を詳細に分析して和泉市に合った政策や行財政改革を提言するということは不可能ではないものの、相当の時間と人員を要するため、工数と利益とを天秤にかけると利益が少なく応募には至らない」という意見があった。そのため、施策提案部分については、プロポーザルにおける加点項目とし、本市として最低限求めるものは、先進事例等の提示とした。</p>
吉田副市長	<p>○今のままでは、委託者と受託者の役割がわかりにくいので、その役割分担を明確にしておく必要がある。</p>
事務局	<p>○事業者にわかりやすい仕様書にしていく。</p>
森吉副市長	<p>○残念ながら、今回は不調・再公募という結果になり、今後の事務スケジュールがタイトになってしまったが、全体スケジュールに影響の内容、事務局におかれてはしっかりと策定支援事業者と調整願う。</p> <p>また、各部局の長におかれては、現在作成中のヒアリングシートの中で、きっちりと現状の課題や今後のビジョンを明確にし、各課個別の視点だけでなく、各課をまたぐ横断的な視点についても十分検討し、部局長のマネジメントを発揮されたい。</p> <p>○それでは、本日の委員会については以上とする。</p>
	<p>(10:30 終了)</p>

会議の意見を踏まえた対応

○人口ビジョンについて、色使いや文言等の修正

⇒ みやすさ、わかりやすさを考慮したうえで人口ビジョン（案）を修正し、委員長と最終調整する。

○大阪府内各市の人口をまとめた資料を整理する

⇒ 各市の人口と、本市に係る転入・転出との関係を調査する。